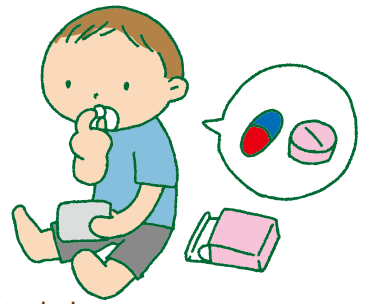


# 子どもが間違っ て薬を飲んでしまった



子どもは周囲のものに興味を持ち、何でも口に入れてしまいます。  
自分用の薬は飲みたがらなくても、大人が飲んでる薬は真似して飲みたくなってしまいます。  
大人の飲んでる薬の中には、高血圧の薬、糖尿病の薬、抗うつ薬など、  
1錠でも体格の小さな子どもには命の危険がある時があります。

## 応急処置のポイント

まず

息をきちんとしているか  
声をかけたら返事をするか(意識がしっかりあるか)  
を確認しましょう。

いつもと様子が違う



救急車を呼びましょう

医療機関を受診するときは  
何をどれだけ飲んだかわかるもの  
(空き箱や添付文書、現場の写真など)  
を一緒に持って行きましょう。



電話で相談  
することもできます

大阪中毒110番

365日  
24時間対応

072-727-2499

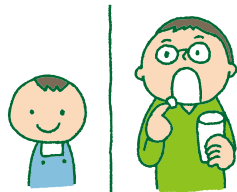
つくば中毒110番

365日  
9~21時

029-852-9999

## 家庭での事故(傷害)予防のポイント

なるべく  
子どもの見ているところで  
薬を飲まないように  
しましょう

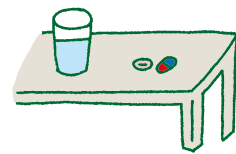


子どもの  
手の届くところに  
薬は置かないように  
しましょう  
(1m以上の高さ)



普段は手の届くところに置いていなくても  
以下のような事故が報告されています

✓ 飲もうと思っていたが  
別のことをして  
置き忘れてしまった



✓ 高いところに置いていたが  
子どもが台を持ってきて  
届いてしまった



✓ 実家に帰省した際など  
祖父母の薬が  
子どもの手の届くところに  
置いてあった



## 実際に あった事例

親の薬を食べてしまいけいれん Injury Alert (傷害速報) No.67

2歳の女の子。高さ150cmのキッチンの棚に置かれていた母の薬が置かれていた。  
側に70cmの足台があり、それに登って薬を食べていたところを母が発見。  
意識が悪くなり、救急車を要請。けいれんが止まらなくなり、集中治療室 (ICU) に入院になった。

## 主治医から のひとこと